CLAIR REPORT No. 465

オーストラリアの大規模イベントにおける ボランティアの活用

Clair Report No.465 (June14, 2018) (一財)自治体国際化協会 シドニー事務所



「CLAIR REPORT」の発刊について

当協会では、調査事業の一環として、海外各地域の地方行財政事情、開発事例等、様々な領域にわたる海外の情報を分野別にまとめた調査誌「CLAIR REPORT」シリーズを刊行しております。

このシリーズは、地方自治行政の参考に資するため、関係の方々に地方行財 政に係わる様々な海外の情報を紹介することを目的としております。 内容につきましては、今後とも一層の改善を重ねてまいりたいと存じますの で、ご意見等を賜れば幸いに存じます。

本誌からの無断転載はご遠慮ください。

問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麹町 1-7 相互半蔵門ビル

(一財)自治体国際化協会 総務部 企画調査課

TEL: 03-5213-1722 FAX: 03-5213-1741

E-Mail: webmaster@clair.or.jp

はじめに

今後の我が国においては、2019 年にラグビーワールドカップ、2020 年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会、更に 2021 年にはワールドマスターズゲームズ関西大会と、大規模国際スポーツイベントが続けて開催される。これらイベントの成功に向けては、関係機関の入念な準備と国民的な盛り上がりが必要となる。その中で、イベントに関するボランティアは、運営を支える人材という観点のみならず、幅広い国民的な関心を得るため、また、参加意識を醸成するためにも、重要な要素となる。

当事務所の所在国であるオーストラリアは、2000年のシドニー五輪を見事成功させるとともに、オセアニアの中心国として多くの国際的なイベントを開催している。ボランティア活動には元々熱心な国柄もあり、各種イベントへの導入、活用については目を見張るものがある。

本編は、ここオーストラリアにおけるボランティア活動の現況とシドニー五輪時からのボランティア活動の推移を概説するとともに、執筆者らのボランティア参加を通じた 実践的な調査を踏まえた事例紹介を行うものである。

特に事例紹介については。実際の参加を通じて得た募集・応募・研修等の具体的手順、 運用体制、インセンティブ措置等を詳述するもので、他では得られない知見をお伝えで きるものと考えている。

なお、同じ執筆者らが調査・執筆した「2017 年ワールドマスターズゲームズ・オークランド大会の運営及び成果」(CLAIR REPORT No457)においても、同じ大規模国際スポーツイベントにおけるボランティア活動の概況と実情について報告されているので、併せて御覧いただきたい。

これらオーストラリアにおけるボランティア活動の実践例について、自治体関係者の みならず、多くの方に御覧いただくことで、今後の政策立案、ボランティア活動の更な る活性化の一助となれば幸いである。

> (一財) 自治体国際化協会シドニー事務所長 上坊 勝則

第1章	重 才	ーストラリアにおけるボランティアの概況	1
第	第1節	ボランティア参加者の特徴	1
	1	ボランティア参加者数	1
	2	ボランティア参加者の属性	3
第	第2節	ボランティア活動の特徴	7
	1	活動分野	7
	2	活動時間	8
	3	業務内容	8
第	第3節	2000 年シドニーオリンピック・パラリンピック大会とボランティア	10
第2章	至 行	政によるボランティア支援	12
第	51節	連邦	12
	1	法的基盤、戦略の策定	12
	2	財政的支援制度	12
	3	ボランティア参加者の安全衛生の確保	13
第	第2節	NSW 州	14
	1	ボランティア活動戦略の策定	14
	2	ボランティア NSW (NSW Volunteering)	14
	3	ボランティア支援施策	15
第	第3節	地方自治体	19
	1	ウィロビー市	19
	2	ウーロンゴン市	20
第3章	至 才	ーストラリアにおけるボランティアの事例	21
第	第1節	第 20 回シドニー・ビエンナーレにおけるボランティアの活用	21
	1	第 20 回シドニー・ビエンナーレの概要	21
	2	ボランティアの募集	21
	3	ボランティア当日の事務手続及び業務	22
	4	ボランティアへの動機付け	23
第	52節	ビビッド・シドニー(Vivid Sydney)におけるボランティアの活用	25
	1	ビビッド・シドニーの概要	25
	2	ボランティアの募集	25
	3	ボランティア研修	26
	4	ボランティア参加者の当日の流れ	27
	5	ボランティアの動機付け	
第	第3節	シドニーマラソンにおけるボランティアの活用	30
	1	シドニーマラソンの概要	30
	2	ボランティアの運営及び募集	30
	3	ボランティアの職種	30

4	ボランティアの研修	34
5	ボランティア当日の事務手続及び業務	34
第4食	市 マルディグラにおけるボランティアの活用	35
1	マルディグラの概要	35
2	ボランティアの募集・役割	35
3	ボランティア活動の事例	35
第5頁	ラグビーリーグワールドカップにおけるボランティアの活用	37
1	ラグビーリーグワールドカップの概要	37
2	ボランティアの募集	37
3	ボランティア参加者の分類	39
4	ボランティア研修	40
5	ボランティアの動機付け	41
おわりに.		43
参考文献.		44

概 要

シドニーで生活するなかで、街角で募金活動やチャリティイベントに参加する学生、イベントの会場整理をする若者、ガイドボランティアをするシニア世代など、ボランティア参加者の姿を目にする日は少なくない。中でも、大規模イベントにおけるボランティアの活躍は、運営実施において欠かせないものになっている。

本レポートは、シドニーを中心として開催された大規模イベントの実地調査、インタビューなどを行い、オーストラリアの大規模イベントにおけるボランティアの活用を調査したものである。

第1章では、オーストラリアにおけるボランティア参加者や活動内容の特徴を豪州統計局が行った調査をもとに概観する。また、オーストラリアのボランティア活動への気運向上の契機とされる 2000 年シドニーオリンピック・パラリンピック大会でのボランティアの様子からボランティア活動が盛んとなった経緯を確認する。

第2章では、ボランティア活動の推進のため、連邦、州、自治体がそれぞれ行っている 取組を紹介する。

第3章では、2016 年から 2017 年にかけて、シドニー市で行われた大規模イベントに おける実際のボランティア運営事例を、筆者が実際にボランティア活動を行った体験や インタビュー内容を交えて紹介する。

第1章 オーストラリアにおけるボランティアの概況

オーストラリアでは、日本と比べ、ボランティア活動がより盛んであり、身近な社会 貢献活動として捉えられている。このことは、普段、街中でボランティアの姿を見かける 頻度やその規模の違いから、生活実感として容易に感じられるものであるが、各政府機関 が行っている統計調査からも明らかである。

内閣府が 20 歳以上 69 歳以下の男女を対象に行った調査によると、日本では 2015 年の 1 年間にボランティア活動に参加したことがあると回答した者は 17.4%であった¹。一方、オーストラリアでは、2014 年の 1 年間に 15 歳以上の総人口の 31%がボランティア活動に参加したと回答している²。また、2010 年に発表された研究によると、オーストラリアにおけるボランティア活動を時給換算し、その他、交通費、電話代等の諸経費を加えて算出したところ年間で約 293 億豪ドル³もの経済貢献を行っているとされる⁴。本章では、オーストラリアにおけるボランティアについて参加者の属性、活動内容の特徴から概観するとともにオーストラリアのボランティアの気運を向上させたとする 2000 年シドニーオリンピック・パラリンピックについて述べる。

第1節 ボランティア参加者の特徴

豪州統計局(Australian Bureau of Statistics、以下、「ABS」という。)は、ボランティアを「団体やグループを通じて時間やサービスあるいは技術における手助けを進んで無償で提供する」活動 5 と定義し、1995年に初の全国規模での慈善活動調査 6 を行った。以降、2000年に第 2回慈善活動調査 7 、2006年 8 、2010年 9 及び 2014年 10 に一般社会調査(General Social Survey)の一部としてボランティアに関する調査を行った。本節では、上記統計資料を元にオーストラリアのボランティア参加者の特徴や属性について述べる。

1 ボランティア参加者数

各統計資料によると、18 歳以上の総人口のうち、過去 1 年間のボランティア参加者は、1995年は約320万人(18歳以上総人口の約24%)、2000年は約440万人(約32%)、2006年は約520万人(約34%)、2010年は約610万人(約36%)と過去15年間にわたり増加の一途をたどった。

¹ 内閣府「平成28年度市民の社会貢献に関する実態調査報告書」(平成29年3月)。

² ABS, Table 19, 4159.0 - General Social Survey: Summary Results, Australia, 2014.

^{3 1}豪ドル=約85円

⁴ Volunteering Victoria, *Key facts and statistics about volunteering in Victoria*, 2016, pp.11-14.

⁵ 学生の職業体験や職業訓練活動や、失業者向けの再就職活動などは除く。

⁶ ABS, 4440.0 – Voluntary Work, Australia, June 1995.

⁷ ABS, 4441.0 – Voluntary Work, Australia, 2000.

⁸ ABS, 4441.0 – Voluntary Work Australia, 2006.

⁹ ABS, 4441.0 – Voluntary Work Australia, 2010.

¹⁰ ABS, 4159.0 – General Social Survey: Summary Results, Australia, 2014.

特に、2000年には、シドニーオリンピック・パラリンピック大会の開催を契機にボランティア活動の気運が高まり、同大会のボランティア数を除外した2000年調査においても、1995年調査時から参加者率が8ポイント上昇し、全調査において最大の伸びを示した。なお、同大会には約5万5,000人がボランティアとして参加している(詳しくは、第1章第2節参照)。その後の調査においても、上昇傾向は緩やかになるものの、参加者数は2010年まで一貫して増加しており、オリンピック後もボランティア活動が国民に定着していることが分かる。

最新の調査となる2014年一般社会調査では、調査対象を15歳以上に拡大し、過去1年間のボランティア活動への参加について調査を行った。この調査によると15歳以上でボランティア活動を行った者は約578万人(15歳以上の総人口の約31%)であった。そのうち、18歳以上でボランティアを行った者は約545万人(18歳以上の総人口約31%)とされ、1995年の調査開始後、初のボランティア参加者の下落となった。ABSは、現在、下落の原因や今後の傾向の調査を行っている¹¹。

-

¹¹ ABS, 4159.0.55.004 - Discussion Paper: Information needs for Volunteering data, April 2017 (Accessed 2018-3-15).">http://www.abs.gov.au/AUSSTATS/abs@.nsf/Lookup/4159.0.55.004Main+Features1April%202017?OpenDocument>(Accessed 2018-3-15).

2 ボランティア参加者の属性

(1) 性別

2014年一般社会調査¹²によると、過去1年間にボランティアを行った15歳以上約578万人のうち、男性は約265万人、女性は約313万人であった。これは、15歳以上の男女別総人口で見ると、男性総人口の29.1%、女性総人口の33.5%に当たり、女性のほうが男性より参加者数、参加者率、ともに高いことが分かる。

(2) 年齢層

2014年一般社会調査によると、年齢層別ボランティア参加者は、 $15\sim17$ 歳が最も高く年齢層別総人口の41.6%、次いで $35\sim44$ 歳が39.3%、 $65\sim74$ 歳が34.6%となった。退職後間もない世代において参加者率が高いことに加え、働き盛りである $35\sim44$ 歳、15歳 ~17 歳の学生世代の参加者率が高いことが、特徴的である。



図表1-1 年齢層別ボランティア参加者率

¹² ABS, 4159.0 – General Social Survey: Summary Results, Australia, 2014.

(3) 就労形態

2014年一般社会調査によると、ボランティア参加者を就労形態別に分類した場合、 就労者(フルタイム又はパートタイムで働く者)のボランティアへの参加割合が最も 高く32.7%であり、就労状態にない者(失業者、退職者、その他)よりも就労状態 にある者の方がボランティア活動にも参加する傾向にあることが分かる。

図表1-2 就労形態とボランティア参加者人口

就労形態	人口推計(万人)	割合 (%)
フルタイム労働者	236.2	29.9
パートタイム労働者	151.7	38.4
非就労者	23.8	30.5
退職者	97.4	27.4
その他労働環境にない者	69.3	30.0

(4) 世帯形態

2014年一般社会調査によると、ボランティア参加者を世帯形態別に分類した場合、子どものいる夫婦世帯のボランティア参加率が37.5%で最も高く、その他の形態の世帯に比べて9ポイント以上高い結果となっている。

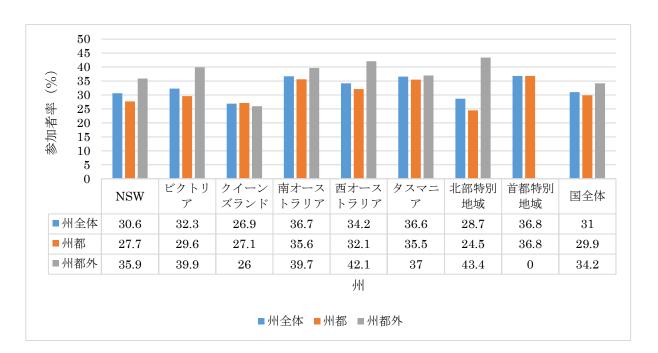
図表1-3 世帯形態とボランティア参加者人口

世帯形態	人口推計(万人)	割合 (%)
子どものいる夫婦世帯	288.5	37.5
子どものいない夫婦世帯	157.7	28.5
ひとり親世帯	49.2	27.4
単身世帯	56.9	24.8
家族以外と暮らす者	97.4	22.8

(5) 地域別参加者数

2014年一般社会調査によると、ボランティア参加者を居住地域別に分類した場合、キャンベラ首都特別地域が36.8%と最も高く、最も低いクイーンズランド州 (26.9%) との間には10ポイントの差がある。

州都と州都以外では州都以外の地域での参加者率のほうが一般的に高い傾向にあり、特に、西オーストラリア・北部特別地域の州都外では40%以上もの人がボランティアに参加している。



図表1-4 州・特別地域別ボランティア参加者率13

(6) 身体状況

2014年一般社会調査では調査対象とされていないが、2010年一般社会調査ではボランティア参加者の身体状況に関する調査も行われた。これによると、身体障害や長期に渡る身体的不調を有すると回答した者のうち約29%(約168万人)がボランティアに参加している。これは、障害や長期の身体的不調がないと回答した人のボランティア参加率、約32%(約410万人)に比べると参加率が低いものの、オーストラリア全体のボランティア参加者率(約31%)からは大きくかけ離れず、わずか2ポイント低いのみである。この調査から、障害や長期の身体的不調を有する人も積極的にボランティア活動に参加しており、運営面からも見ても、身体的なハンディキャップがあってもボランティア活動に参加できる環境が整っていることが分かる。

¹³ NSW は、ニュー・サウス・ウェールズのこと。以下、「NSW」という。

(7) 言語的、文化的多様性

オーストラリアでは、全人口の28.4%が国外で出生しており、20.8%が家庭で英語以外の言語を使用されている¹⁴。そのため、多文化主義国家ならではの調査が行われている。2014年一般社会調査によると、国外で出生した者の約26%(約150万人)がボランティア活動に参加している。また家庭での主要使用言語が英語以外の者のボランティア参加者率は、23.3%(約88万人)と推計される。この数字は、家庭での主要言語が英語である者のボランティア参加者率33.3%(約489万人)を10ポイント下回るとともに、15歳以上の総人口におけるボランティア参加者率約31%より約8ポイント低く、ボランティアに参加するうえで言語が障壁となっていると考えられる。

¹⁴ ABS, AUSTRALIA (0) 2016 Census of Population and Housing General Community Profile Catalogue number 2001.0.

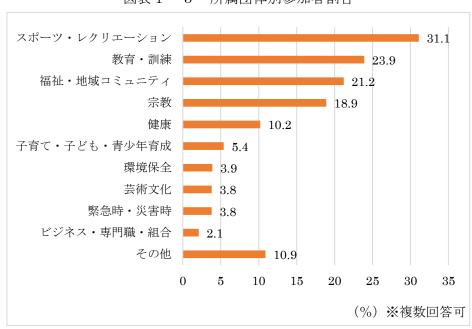
第2節 ボランティア活動の特徴

本節ではオーストラリアで盛んなボランティア活動分野、活動内容等について特徴を 紹介する。

1 活動分野

前述した ABS の統計資料によると、2000 年慈善活動調査(第 2 位)を除き、全ての調査において、「スポーツ・レクリエーションに関するボランティア活動」に関するボランティア団体に所属していると回答する人の割合が最も高い結果となっている。最新の2014 年一般社会調査においても、「スポーツやレクリエーション」に関するボランティア団体に所属している人が最も多く約 180 万人で、これはボランティア参加者全体の31.0%、15 歳以上の総人口の約 10%に当たる。次いで「教育や訓練」に関するボランティア団体に所属している人が約 123 万人(ボランティア参加者全体の 23.9%)、「福祉や地域コミュニティ」に関するボランティア団体に所属している人が、約 110 万人(21.2%)であった。

活動分野について、日豪では異なる傾向を示しており、内閣府の調査によると、参加者が多い分野は「子ども・青少年育成」(25.9%)「まちづくり・まちおこし」(25.5%)「保健・医療・福祉」(19.8%)の順となっている¹⁵。日本におけるスポーツボランティアへの参加率は 1994 年調査開始以降、6~8%で横ばいであり¹⁶、文部科学省によるスポーツ基本計画や第2期スポーツ基本計画等で、地方公共団体やスポーツ関連団体等によるスポーツボランティア活動の普及促進が推奨されている。



図表 1-5 所属団体別参加者割合

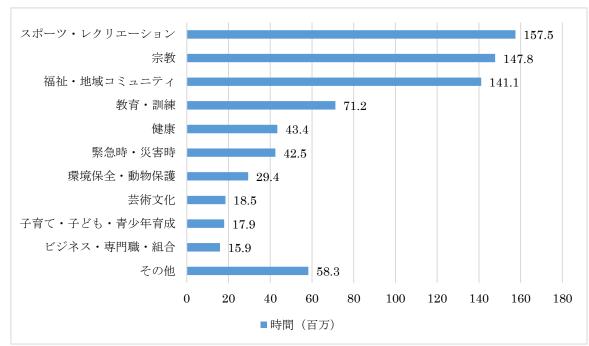
¹⁵内閣府「平成 28 年度市民の社会貢献に関する実態調査報告書」(平成 29 年 3 月)。 16笹川スポーツ財団「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究(スポーツにおけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究)」(平成 27 年 3 月)。

2 活動時間

オーストラリア全体におけるボランティアの活動時間は 2014 年一般社会調査によると 1年間で約7億4,300万時間と推計される。これは1人当たり年間平均128時間のボランティアを行っていることに相当するが、49.0%のボランティア参加者の活動時間は年間 50時間以内であるとされる。一方で、18.7%が年間 200時間以上ボランティア活動に従事している17。

ボランティアの活動時間を分野別に調査した場合、「スポーツ・レクリエーション」におけるボランティアが 1 億 5,700 万時間で最も多く、オーストラリア全体のボランティア活動時間の約 21%に相当する。次いで「宗教」に関するボランティアが 1 億 4,760 万時間、「福祉・地域コミュニティ」におけるボランティアが 1 億 4,110 万時間となった。

以上1、2より「スポーツ・レクリエーション」は、参加者数、行動時間ともにオーストラリアにおいて最も活発なボランティア活動分野であるといえる。



図表1-6 分野別活動時間

8

¹⁷ ABS, Table 21, 4159.0 - General Social Survey: Summary Results, Australia, 2014.

3 業務内容

2014年一般社会調査によると、ボランティアが各活動分野において具体的に行う業務として最も時間を費やしたと回答したものは以下のとおりである。

図表1-7 活動内容別ボランティア参加者割合(複数回答可)

活動内容	回答割合
資金集め・販売	23%
教育・指導・情報提供	15%
コーチ・レフェリー・審判員	14%
調理・配食	14%
組織運営・ボランティア募集・情報管理	12%
管理・委員会活動・調整	12%
修理・メンテナンス・ガーデニング	10%
お世話・傾聴・カウンセリング・指導・助言	10%
人やモノの輸送サービス	4 %
演劇・メディア上演	3 %
日常介護・支援	3 %
捜索援助・応急処置・消防活動・生活安全	3 %
ロビー活動・権利擁護(アドボカシー)・政策	1 %
調査	
環境保護	1 %
その他	8 %

第3節 2000年シドニーオリンピック・パラリンピック大会とボランティア

当時、「過去最高のオリンピック」と呼ばれた 2000 年シドニーオリンピック・パラリンピック(以下、「シドニー五輪」という。)は、その後の各国の五輪開催準備においても成功事例として参照されてきた。シドニー五輪の成功はボランティアの活躍なくしてなし得なかったと言われており、当時の国際オリンピック委員会(IOC)事務総長のフランソワーズ・カラードは大会期間中にシドニーのセントラル駅周辺でユーモア豊かに大勢の人々を効率的に誘導していたボランティアが「今まで見た中で最高だった」とIOCの会議において発言した¹⁸。同大会のボランティアには約5万5,000人が動員され、大会ボランティアの経験を通じて、ボランティア参加が楽しく、充実したものであるというイメージを作り出した。また、大会後のボランティア参加者やボランティア活用団体の増加から、同大会はオーストラリアにおけるボランティアの気運向上の契機であったとされている¹⁹。翌2001年の国際ボランティア年も相まって、2000年代初頭はオーストラリアのボランティア活動の大きな変革期であったと言える。

1996年アトランタ五輪から 2008年北京五輪までを対象とした調査では、唯一、シドニー五輪においてのみ、参加者の専門性を活かしたボランティアの配置が積極的に行われたことで、市民が自身の経験を活かすために自発的にボランティアに参加したと述べられており²⁰、他の五輪と比較してもボランティア参加者の積極性が伺えるものだった。実際に、シドニー五輪におけるボランティアの約半数は、技術者、施設運営者、スポーツ・フィットネスアシスタント等の専門的なスキルを有する者だった。

シドニー五輪では、オーストラリアで史上最大の5万5,000人²¹(オリンピック4万7,000人、パラリンピック1万5,000人)のボランティアが採用された。当初計画では、オリンピック4万人、パラリンピック1万人の計5万人を採用する予定であったが、シドニー五輪組織委員会の予算削減のため、ボランティア数を増加させて人件費を節減することとした。オリンピック大会の4万7,000人分のみで、700万時間のボランティアが行われており、同時間分の賃金は約1億1,000万豪ドル²²に及ぶと試算されている²³。実際にこれだけの賃金を支払っていた場合、大会開催にかかる経費が4.5%増額していた。シドニー五輪では、ボランティアの約60%は45歳未満の参加者であり、特に18歳から24歳の参加者が全体の24%と高い数字を占めた。これは、大会開催期間中、NSW州内

¹⁸ Smith, L., *living is giving – the volunteer experience*, 2001, p.9.

¹⁹ Lockstone-Binney, Leonie et al., Evaluation the volunteering infrastructure legacy of the Olympic Games: Sydney 2000 and London 2012, 2016, pp.20-21.

²⁰ Koutrou, Niki. Pappous, Athanasious. And Johnson, Anna., *Post-Event Volunteering Legacy: Did the London 2012 Games Induce a Sustainable Volunteer Engagement?*, 2016, p.2.

²¹ 五輪とパラリンピック両方のボランティアに携わった者が 7,000 人いるため、実際の人数は 55,000 人である。

^{22 2000} 年当時のレートは、1豪ドル=約65円

²³ Constand, S. (2014), *Volunteering at the Sydney Olympics: tangible legacy or distant memory?*. 2014. Available from https://futurechallenges.org/local/volunteering-at-the-sydney-olympics-tangible-legacy-or-distant-memory/

の大学や学校を休暇としたことや、一部の大学がボランティア活動への従事を大学の単位として認定したことによる。また、NSW州政府が、同政府職員が大会ボランティアとして参加するため5日以上の有給休暇を取得する場合には、5日間の特別休暇を付与するなど、政府・企業の組織的な協力も見られた。

ボランティアには他州や他国からの参加者も多く、ボランティアを対象とした研修はキャンベラ、アデレード、メルボルン、ブリスベンといった主要都市で行われた。シドニー五輪はオーバーン市内24のシドニーオリンピックパークを中心に、シドニー大都市圏内で開催されたが、ボランティアの活躍は同圏内に留まらなかった。五輪の聖火リレーは3ヶ月以上かけてオーストラリア内各地を巡ったが、地域在住のボランティアが運営を補助した。このため、ボランティア参加の気運向上という五輪の効果はシドニーのみならず、オーストラリア全土に波及した。

シドニー五輪成功の立役者となったボランティア達の功績は、彼らへのインタビュー内容とともに"Living is Giving" (生きることとは与えること)という本にまとめられた。また、全ボランティアの氏名は大会後にオリンピックスタジアム25の横に設置された約300本の柱のモニュメントに刻まれるなど、功績が形に残されることで、ボランティアが自身の参加に誇りを持てるようにした。

このように、オーストラリア全土から過去最大数のボランティアを動員し、その楽しさとやりがいを広めたシドニー五輪は、その後のオーストラリアに、ボランティア参加という文化的なレガシーを残したと言える。なお、シドニー五輪におけるボランティアの概要は(財)自治体国際化協会「シドニー五輪の概況と波及効果」『CLAIR REPORT』No.237に詳しい。



ボランティア参加者の氏名が刻まれたモニュメント

11

^{24 2016}年の NSW 州自治体合併により、現在はカンバーランド市内。

²⁵ 命名権販売により、現在の名称は「ANZ スタジアム」である。

第2章 行政によるボランティア支援

連邦又は多くの州・地方自治体でボランティア活動をサポートするための施策がとられている。なお、ここでは、NSW 州の例を取り上げる。

第1節 連邦

1 法的基盤、戦略の策定

連邦では、ボランティア個人を活動中の賠償責任からの免除を行うため、ボランティア 保護法(Commonwealth Volunteers Protection Act 2003) を規定している²⁶。

2011 年には「国家ボランティア戦略」(National Volunteering Strategy)が策定され、ボランティア活動の促進、支援、認知に向けた 2021 年までの主要な取組事項として以下の6つを挙げている。

- (1) ボランティア活動の最新傾向を把握し政策に役立てること。
- (2) IT を利用しボランティア参加者を増加させること。
- (3) ボランティアの保護や保険に関するより効果的な規則を策定すること。
- (4) ボランティアの管理や訓練に関する情報や資源を提供すること。
- (5) ボランティア団体やその他関連団体との関係を強化すること。
- (6) ボランティアの社会への貢献をより認識すること。

2 財政的支援制度

社会サービス省(Department of Social Services)は、ボランティアの活動をサポートするための「ボランティア助成金」(Volunteer Grants)として、ボランティア団体からの申請により、1,000 豪ドルから 5,000 豪ドルまでの助成金を公布している。2016年度は、この助成制度により 2,700 のコミュニティ団体が助成を受けた27。

また、同省は「ボランティア管理助成金」(Volunteer Management Activity)として、特定団体の特定地域での活動を助成対象として指名し、指名を受けた団体から申請があったものに対して、助成金を支給している。2018年から1月から2021年7月までの3年半の活動に対して、総額199万5,000豪ドルが支給されることになっている28。

²⁶ Department of Communities, Government of Western Australia,

WA Volunteering Strategy Enriching lives, strengthening communities, p.4,

https://www.dlgc.wa.gov.au/Publications/Documents/WA_Volunteering_Strategy_2017.pdf (Accessed 2018-3-15).

²⁷ Community Grants Hub, Australian Government, Volunteer Grants 2016,

https://www.communitygrants.gov.au/grants/volunteer-grants-2016 (Accessed 2018-3-15).

²⁸Department of Social Services, Australian Government, *Volunteer Management Activity Grant Opportunity Guidelines*,

https://www.communitygrants.gov.au/sites/default/files/documents/12_2017/grant_opportunity_guidelines_-volunteer_management_activity_0.pdf (Accessed 2018-03-15).

オーストラリアにおけるボランティアの権利擁護(アドボカシー)団体である「ボランティアオーストラリア(Volunteering Australia)」も同省からの助成を受け²⁹、オーストラリアにおけるボランティア活動を率先し、強化、促進のための提言や調査、情報提供などを行っている。また、ボランティアオーストラリアは、ボランティアマッチングサイト Go Volunteer を提供しており、ボランティアを募集する団体もボランティア活動をしたい人も無料で使用することができる。

3 ボランティア参加者の安全衛生の確保

2012年より新たな「職場安全衛生法」(Work health and safety law)が施行され、ボランティアを活用する事業主は、合理的で実務的に可能な限り、ボランティア参加者にも有給の従業員と同様に心身の安全衛生を確保する義務が課された。また、ボランティア参加者にも自身の安全衛生の合理的な配慮、他者の安全衛生に影響を及ぼさないための合理的配慮、組織の安全衛生に関する指示や手続に従うことが定められた。

内閣府は、安全衛生に関する政府系組織 Safe Work Australia と協働し、「ボランティアのための職場安全衛生法基礎ガイド³⁰」を作成し、ボランティア運営団体とボランティア参加者の安全衛生法に対する理解を深めることで、ボランティアの安全衛生の確保に努めている。

²⁹ Volunteering Australia, *Partners and Supporters*,

https://www.volunteeringaustralia.org/get-involved-2017/partners-supporters/ (Accessed 2018-3-15).

³⁰ Safe Work Australia, *The Essential Guide to Work Health and Safety for Volunteers*, https://www.safeworkaustralia.gov.au/system/files/documents/1703/volunteers_guide.pdf (Accessed 2018-3-15).

第2節 NSW 州

1 ボランティア活動戦略の策定

州により、ボランティアの活動を促進、サポートするための施策は異なるが、NSW 州家族・コミュニティサービス省(Department of Family and Community Services)は、対面又はオンラインで 2,200 人以上の住民、ボランティア団体、コミュニティーセクター、政府団体、非政府団体と協議を行い NSW 州の「第 2 次(2016-2020)ボランティア活動戦略」(NSW Volunteering Strategy 2016-2020)を策定した。同活動戦略では、ボランティアに参加したい人は誰でも、生涯にわたりボランティアに参加できるように支援することを原則としており、若者のボランティア参加の促進、地域活動への生涯にわたる参加、退職後のボランティアへの参加支援などに焦点を当てている。

2 ボランティア NSW (NSW Volunteering)

ボランティア NSW は NSW 州家族・コミュニティサービス省の下、第 2 次ボランティア活動戦略の履行を担っている 31 。また、公式ウェブサイトや州内 30 地域にあるボランティアセンター(Volunteer Resource Centre) 32 を通じたボランティアのあっせんを行っている。さらに、ボランティアの紛争解決に関する情報、関連法律情報、リスク管理方法の紹介などをウェブサイト上で公開している。

_

³¹ NSW Volunteering, *About us*, https://www.volunteering.nsw.gov.au/about-us (Accessed 2018-3-15) .

NSW Volunteering, Listing of Volunteer Resource Centres in NSW, https://www.volunteering.nsw.gov.au/__data/assets/pdf_file/0006/432816/List-of-Volunteer-Resource-Centres.pdf (Accessed 2018-3-15).

3 ボランティア支援施策

以下に NSW 州によるボランティア支援施策の一部を紹介する。

(1) NSW 州首相によるボランティア表彰プログラム33

2015 年に開始されたこのプログラムは、ボランティア活動を通じて社会に貢献した州内の成人、学生を NSW 州首相が表彰するもので、現在までに 1 万 3,000 人以上が表彰をされている。

成人の場合、表彰を受けるには各自がオンライン上でノミネートを行う必要があり、 ①生涯(40年以上)にわたりボランティアを行っている人、②25年以上のボランティア経験がある人、③最近退職しボランティア活動を始めた人、又は続けている人、 ④年齢を問わず、ボランティア活動に貢献をした人の4つのカテゴリーに分けてノミネート、表彰が行われる。

学生の場合、学校からの推薦により①3か月間で13時間以上のボランティア活動を行った9年生以下、②6か月間で26時間以上のボランティア活動を行った10年生、③12か月で52時間以上のボランティアを行った11・12年生、④「英国エディンバラ公国際アワード 34 」の受賞者に与えられる。

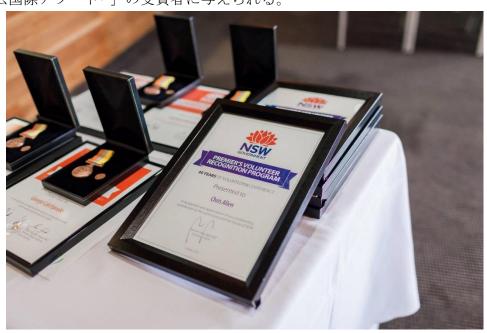


写真2-1 ボランティア表彰プログラム表彰状 (イメージ)

(出典 Shape Your Future NSW フェイスブックページ<https://www.facebook.com/nswvolunteer/>)

https://www.volunteering.nsw.gov.au/stories/premiers-volunteer-recognition-program (Accessed 2018-3-15).

³³ NSW Volunteering, Premier's Volunteer Recognition Program,

^{34 14} 歳から 24 歳であればだれでも参加できる国際業績アワード。最低要件を満たす目標を自分で立てて達成することでブロンズ、シルバー及びゴールドのアワードを獲得する。

(2) ボランティアサービス交換ウェブサイト「Timebanking」

ボランティアサービス交換ウェブサイト「Timebanking」は、2012 年に家族・コミュニティサービス省により立ち上げられた。このウェブサイトでは、個人がサイト上でメンバー登録を行い、地域住民同士でサポートやサービス(例えば、犬の散歩やガーデニング、家事の手伝い、語学レッスンなど)を交換し合うことができる。利用者は、ウェブサイト上に、自分が提供できる又は必要としているサポートやサービス内容を登録し、他の登録者から要望があれば、ボランティアとして無償でサポートやサービスを提供する。このウェブサイトの特徴は、ボランティアに従事した時間が「クレジット」として登録され、利用者はクレジットとして貯まった時間数のボランティアサービスを他の利用者から受けることができる点である。Timebanking の利用は無料で、このサイトを通じて 2016 年までに 70 以上の州内地域で 5,800 人以上が 2 万 3,000 時間以上のボランティアサービスを交換した35。

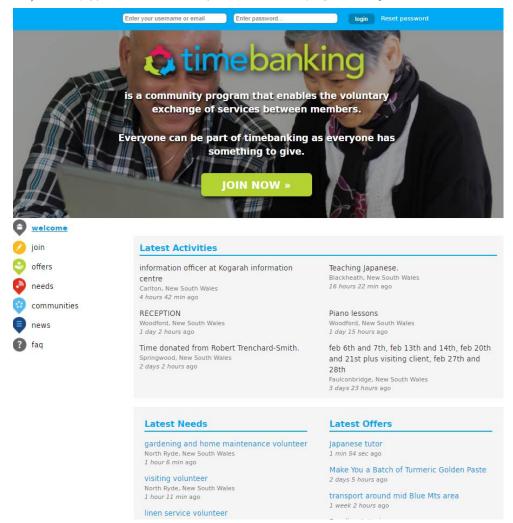


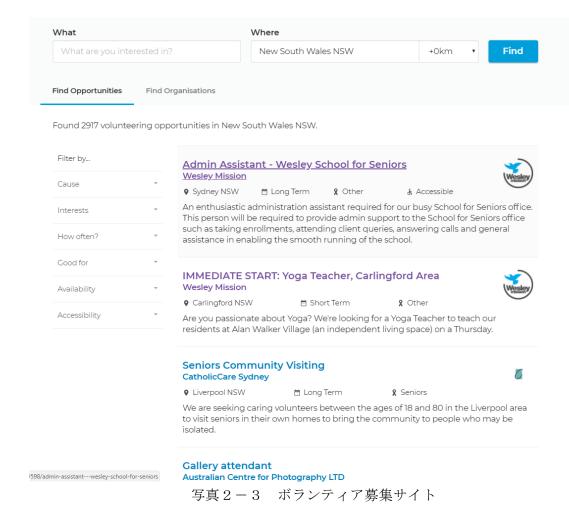
写真2-2 Timebanking ウェブサイト (提供できるサービスや必要とされるサポートが掲示板方式に書き込まれている。)

³⁵ NSW Government, NSW Volunteering Strategy 2016-2020, p.4.

(3) ボランティア募集サイトの運営

家族・コミュニティサービス省は、2017年6月より、オーストラリア最大の求人サイトとボランティアオーストラリアがともに開発したボランティア情報サイト「SEEK Volunteer³⁶」と提携し、ボランティア NSW のウェブサイトにおいて、州内のボランティア募集情報の閲覧、応募をワンストップで行うことができるようにした。

このウェブサイトには、2018年2月現在、州内約3,000件のボランティア情報が掲載されており、利用者は関心分野や活動地域、活動頻度、活動時間帯など、個人のニーズに合わせたボランティア情報を検索することができる。



(4) 法律に関する情報の提供

家族・コミュニティサービス省は、人権に関する慈善・非営利組織 Justice Connect に委託し、ボランティアに関する法律の情報シートやチェックリスト、法律関連書類のテンプレートを作成している。これはボランティア運営団体がボランテ

³⁶ 内閣府(Department of Prime Minister and Cabinet) から補助金を受け運営される。

ィア管理に関する法律や、ボランティア活動のリスクを正しく理解し、ボランティア 参加者に対する法的責任を果たす手助けをすることを目的にしている。これらの情報 は、PDF 化し、ボランティア NSW の公式ウェブサイト上にも掲載されている³⁷。

2 | Checklist Volunteer Induction -

Completed Follow up required? By when? Screening (where necessary) Working with Children Check Police Check Other vocational checks (amend to reflect position) Google check Volunteer Agreement signed Provided background about organisation and the role Welcomed and introduced to staff and volunteers Work station prepared Office facilities tour Discussed work premises, facilities and WH&S (emergency procedures, first aid, safety considerations in the role, reporting health and safety concerns, critical incident policies) Provided copy of detailed role description Discussed role description, expectations and reporting structure Key contact person allocated (to go to with any concerns, feedback or queries about role and duties) Policies read, returned and signed by volunteer: Privacy Policy Workplace behaviour policies Conflict of Interest Policy · Photo use consent and release form Volunteer complaints policy and process · Add other key documents, policies and procedures Conducted training in relation to the role including machinery and equipment use Conducted/scheduled training in relation to workplace behaviour policies and risk management Discussed insurance coverage as a volunteer (what cover is available under the organisation's insurance)

Signature of volunteer

Signature of volunteer manager

写真 2-4 Justice Connect によって作成されたチェックリストの一例(ボランティアを採用するときに確認が必要な項目がチェックできるようになっている。)

³⁷ NSW Volunteering, Legal Sources,

https://www.volunteering.nsw.gov.au/resources/legal-resources (Accessed 2018-3-15) .

第3節 地方自治体

各地方自治体における取組の一部を紹介する。

1 ウィロビー市

シドニー市近郊に位置するウィロビー市は「ボランティア戦略 2016-2021」 (Volunteer Strategy 2016-2021)を策定した。この戦略は、ボランティアの管理、採用、参加者の確保、価値の認知方法を改善し、ボランティア活動を効果的で生産的にし、リスクを減らすことを目的に以下の取組目標が定められている。

- (1) ボランティアとの連携、イベントへの関わりを強める。
 - ・若者がボランティア活動やイベントに参加できるようなプログラムを行い、若 者のボランティア参加率を向上させる。
 - ・民間会社やその他団体に対して雇用者向けの企業内ボランティアプログラムを 行うよう呼び掛ける。
 - ・多様な背景を持つ人々がボランティアに参加できる機会を増やす。 等
- (2) ボランティアが感謝され、祝福される。
 - ・公式、非公式イベントにおいてボランティアの貢献が祝福すること
 - ・ボランティア活動と費やした時間が、社会的、経済的に適切に評価・認識されること
 - ・市がボランティアの管理や調整を行う団体や個人を支援すること 等
- (3) 市民へのサービス提供の1つとして、ボランティアのPR、情報発信、マーケティングを行う。
 - ・ボランティア活動を啓発し、地域におけるボランティア参加の問合せ件数を増 やすために PR を行う。
 - ・市の公式ウェブサイト上のボランティア向け情報の質を向上する。
 - ・できるだけ幅広い世代の人々に届けられる戦略的な情報発信を行い、ボランティア参加者の貢献を人々に認知してもらい、関心を高める。等
- (4) ボランティアの優良事例を採用する。
 - ・ボランティア参加者が経験を最大限化でき、市がボランティアの採用や活動、 リスク、支援、スキルアップをうまく管理できるような体系づくりに努力する。
 - ・ボランティアの採用、管理、支援を担当する職員の庁内ネットワークを作る。
 - ・地域住民の需要に最も着目したボランティア活動を積極的に行うために社会調査を行う。
 - ・ボランティア活動の経済的価値と社会的影響を計る評価方法を開発する。等

これらの取組目標に基づき、ウィロビー市では、例えば国際ボランティアデーに市 民ボランティアを昼食会に招待し感謝の意を表したり、英国エディンバラ公国際アワードに挑戦する若者のボランティア活動を積極的に受け入れたりしている³⁸。

2 ウーロンゴン市

シドニー市から南 80km にある NSW 州ウーロンゴン市は、イラワラ地域(ウーロンゴン、シェルハーバー、カヤマ地区のこと)におけるボランティアセンター「ボランティアイラワラ」を運営している。ボランティアセンターの多くは、連邦社会サービス省や NSW 州家族・コミュニティサービス省の補助金により、非営利活動法人として運営されているが、ボランティアイラワラは、ウーロンゴン市図書館・コミュニティサービス課に属している。

ボランティアイラワラの主な業務は、無料のボランティアのあっせんやボランティア管理やリスク管理に関する研修である³⁹。

また、市は、NSW 州保健省の助成のもと、ボランティアイラワラを通じて 2012 年「イラワラにおけるボランティア活動の現状」(State of Volunteering in the Illawara - 2012)の調査を行った40。この調査は、ボランティア参加者やボランティア団体へのアンケートを行い、イラワラ地域におけるボランティア活動の現状や将来の課題を調査したものである。調査を通じて、同地域ではボランティア参加者の高齢化に伴い、1人当たりのボランティア従事時間や、ボランティア参加者数が減っていること、ボランティア管理者がいない団体はボランティア参加者の高齢化が進んでおり、募集を行っても希望者が集まりにくい傾向にあることなどが明らかとなった。若い世代を取り込み、持続可能なものにするには、①それぞれの世代にあった管理体制を取る必要があること(リーダーシップ型、支援型など)、②組織からフィードバックや謝辞を述べることでボランティア参加者の貢献を積極的に承認すること、③それぞれの世代にあったコミュニケーション手段を選ぶ必要があること(若者にはメール、ソーシャルネットワーク、年配には電話等)等が述べられた。

³⁸ Willoughby City Council, *Volunteering*,

http://www.willoughby.nsw.gov.au/community/volunteering/ (Accessed 2018-3-15).

³⁹ Volunteering Illawarra, ABOUT US,

http://volunteeringillawarra.org.au/aboutus/>(Accessed 2018-3-15).

⁴⁰ Wollongong City, State of Volunteering in the Illawarra – 2012,

第3章 オーストラリアにおけるボランティアの事例

本章では、オーストラリアにおけるボランティアについて、①シドニー・ビエンナーレ、②ビビッド・シドニー、③シドニー・マラソン、④マルディグラ、⑤ラグビーリーグワールドカップの事例を挙げていく。

第1節 第20回シドニー・ビエンナーレにおけるボランティアの活用

1 第20回シドニー・ビエンナーレの概要

2016年3月18日から6月5日にかけて、シドニー・ビエンナーレがシドニー市内で開催された。第20回となる2016年のシドニー・ビエンナーレでは"The Future is already here - It's just not evenly distributed" (未来は既にここにある、ただ等しく分配されていないだけ)をタイトルに掲げ、世界35か国・地域から集まった83名・組のアーティストの作品を通して、「歴史、また現在の地政学や経済的権力構造が生み出したあらゆる不平等な分配状況の考察」を目的として開催された。展示ではシドニー現代美術館、NSW州立美術館、コッカトゥー島、移動式図書館や駅舎等の各会場を「思考の大使館」(Embassies of Thought)に見立て、それぞれの場所から着想した、現実(the Real)、翻訳(Translation)、霊魂(Spirits)などのテーマを考える空間として設定した。筆者はこのうち、コッカトゥー島及びレッドファーン地域のアートスペースの会場運営に実際にボランティアとして参加した。

2 ボランティアの募集

シドニー・ビエンナーレのボランティアの募集・運用はイベンチームワーク社(EvenTeamwork)という民間企業が行った。同社はイベントでのボランティア運用を専門にしており、NSW 州やシドニー市の委託事業を請け負っている。同社に対して行ったインタビューによると、ビエンナーレのボランティア参加者は約 500 人で、うち約75%が女性だった。また、約 270 人が最低の参加数として指定されている6日以上のボランティアを行った。ボランティア募集は公式ホームページ内で行っており、以下の役割のボランティアを募集している。基本的にボランティアには外国人を含め誰でも参加可能であるが、公開プログラム及び教育アシスタントのみ NSW 州の規則により、あらかじめ子どもに携わる仕事をするための審査を受け、Work with Children41の資格を得ていなければならない。

- (1) ビエンナーレ大使 (Biennale Envoy): アーティストやその作品、展示について 来場者の会話を促し、ビエンナーレの経験をより良いものにしてもらう。
- (2) 通訳(Interpreter):英語以外の話者の通訳を行う。

_

⁴¹ ボランティアを含め子どもに関連する仕事に犯罪や職場での不法行為を行った人物を配置しないことを目的に、州政府系独立機関(Office of the Children's Guardian)によって行われる審査を通過した者に与えられる。申請者は、申請料(ボランティアは無料)を支払い、身分証明書を提出したうえで審査機関による犯罪歴の確認などが行われる。

- (3) 観客調査アシスタント (Audience Survey Assistant): 前回のビエンナーレとの 比較や、来場者への理解を深めるために調査を行い、マーケティング部を補助する。
- (4) ビエンナーレ情報ハブアシスタント (Biennale Information Hub Assistant) : 会場に訪れる人に情報を提供する。
- (5) 公開プログラム及び教育アシスタント (Public Programs and Education Assistant): ワークショップやイベントの運営を補助する。
- (6) 来場者数記録者 (Visitation Recorder):会場への来場者数を記録する。

ボランティアを志望する者は、氏名、連絡先、住所などに加えて、就業経験、学歴、健康状態、ボランティアに興味を持った理由、使用言語などの情報を入力してプロフィールを作成する。プロフィール登録後、現在募集中のボランティアの日程や概要が見られるようになり、そのウェブページ上で具体的な申込を行うことができる。この段階で申込は可能だが、プロフィール登録後に同意書を添付したメールが届く。メールにはボランティアマニュアルとミニテストへのリンクも載せられており、申込者はボランティアマニュアルに記載の内容を読んだ上で、クイズで理解度の確認を行う。クイズは正答率 70%以上が合格とされる。ボランティアを行う日程・場所を選択すると、開催者からメール、電話などでの連絡が届き、参加前日にも確認の連絡が来る。

3 ボランティア当日の事務手続及び業務

ボランティアとしての配置先へのアクセスは電車やバス、フェリーといった NSW 州の公共交通機関を使用するが、ボランティア開始時に配布されるボランティア用のタグを提示すれば公共交通機関を利用する際の運賃は無料となる。初回のボランティア参加時にはタグのほか、T シャツ、ビエンナーレの各作品等の解説を載せた本がトートバックに入れて渡される。



写真3-1 ボランティアへの配布物

(1) コッカトゥー島

コッカトゥー島のボランティアでは、島内での具体的な業務について当日の朝に説明がある。全体での説明後、相互の連絡用の無線や美術作品の説明が書いたシートを持って配置場所に移動する。一般的な作品の展示部屋では室内に待機し、来場者の質問等に答えたり、来場者が作品に触れないように監視したりするが、来場者にゴーグルを着用し3Dの映像を体験してもらうような特殊な展示ではボランティアが積極的に来場者に説明し、又は声をかける必要がある。

ボランティアの仕事は1日に7時間30分行われるが、途中に交代で30分の昼休憩を挟む。イベント運営者は各ボランティア参加者の昼休憩の時間とともに次の配置場所を記したカードを作成し、参加者に渡す。参加者は昼休憩を取った後に午前とは異なる場所に移動し、そこにいるボランティアと仕事を交代する。交代したボランティアはその後、昼休憩を取り、また別の持ち場に移動する。このようにして、同じ人が一日中同じ場所にいることがないようにコントロールしており、昼休憩時以外にも一回、持ち場の交換がある。これにはボランティア参加者に複数の場所を経験してもらうことで、ストレスを緩和し、モチベーションを保たせる効果があると言えるだろう。

(2) レッドファーン

一方、レッドファーン地域のアートスペースでのボランティアは、芸術作品の前での来場者の監視及び来場者数の集計であるが、業務の具体的な説明はメールと当日手にする資料でのみ行われ、口頭での説明はない。

4 ボランティアへの動機付け

ビエンナーレのボランティアは容易に登録できるようになっており、登録後、採用までに選抜もほとんど行われていない。そのため、登録後に指定回数のボランティアを行わない登録者も多くおり、実際に約 46%の参加者の参加回数が指定数に達しなかった。こうした中、登録者の参加回数を増やすための取組として、以下のものが行われた。

(1) メールマガジン

ボランティア参加者向けに毎週メールマガジンを発行し、前週のイベントの様子やボランティアを募集しているシフトについての情報提供を行っている。また、「今週のボランティア賞」(Volunteer of the Week)を設け、毎週の受賞者を掲載している。

Volunteer of the Week



This week's winner is... Tom Isaac!

He has been nominated by Amelia (venue coordinator at Brown Council), because of his commitment to the project and his excellent time keeping - he always remembers to perform one line from Barbara Cleveland's lecture on the hour every hour!

Thank-you so much for your amazing dedication to the project! keep the amazing job.

図表3-2 「今週のボランティア」賞受賞者に関する記事42

(2) 慰労会及びレストラン割引券

ボランティアにはフルタイムで最低6日間従事することが求められており、6日間以上従事するとビエンナーレ終了後に開催される慰労会(Thank-you Party)に参加できる。更に、合計 80 時間以上従事したボランティアはビエンナーレ・チャンピオン(Biennale Champion)と呼ばれ、メールマガジンに掲載されることに加え、抽選で 200 豪ドルのレストラン割引券をもらえる。

(3) ビエンナーレくじ

5月 23 日から、シドニー現代美術館のバーで毎月開催されるイベントへの参加チケットを景品として、「ビエンナーレくじ」 (Biennale Raffle) が6日間のシフトを達成したボランティアに配布されることとなった。5月 23 日時点で6日間のシフトを終えているボランティアには1枚、7日以上のシフトを終えているボランティアには2枚のくじが配布された。



図表3-3 ビエンナーレくじ

^{42 2016} 年 5 月 12 日に運営者からボランティア登録者に送付されたメールより。

第2節 ビビッド・シドニー (Vivid Sydney) におけるボランティアの活用

1 ビビッド・シドニーの概要

ビビッド・シドニーは、シドニー市において毎年5月下旬から6月中旬頃にかけて開催される光と音楽の祭典で、観光スポットであるオペラハウス、ハーバーブリッジ、タロンガ動物園をはじめ、シドニー市内を音楽と光で彩ることで、以前シドニーに訪れたことがある人も、また違った街の姿を見ることができるイベントである。

2000 年シドニーオリンピック以降の観光客誘致の新たな起爆剤として、NSW 州が主催となり、2009 年より開始し、特にオフシーズンである冬季における観光戦略の一環となっている。調査を行ったビビッド・シドニー2016 は 5 月 27 日から 6 月 18 日まで 23 日間にわたり開催され、23 ヶ国より 150 名以上のアーティストを招聘し、市内 13 か所で 90 以上の展示を行い、231 万人もの観客を集めた。



写真3-4 ビビッド・シドニー2017で彩られたシドニー湾周辺の様子

2 ボランティアの募集

ビビッド・シドニー2016のボランティアの募集や調整は、I need Helpers (以下、「INH」という。)というボランティア管理会社に委託され行われた。

INHは、ボランティア管理システム(以下、「VMS」という。)を利用し、オンライン上でボランティアの募集、管理を行っている。また若い世代の人たちの参加を促すために専用アプリの開発も行っている。ボランティアに参加をしたい人はまず氏名や E メールアドレスを登録し VMS上で自分のログインアカウントを作り、個人アカウントページからボランティアの申込を行う。このアカウントは、VMS自体に登録されるため、ビビッド・シドニーに限らず、INHがボランティア管理を行う全てのイベントの応募に使用できる。INHは VMS に登録された情報から利用者の傾向を把握・分析し、利用者が

興味をもちそうなイベントが開催された際にボランティア募集のお知らせ等を利用者に 通知することができる。

ビビッド・シドニー2016のボランティア希望者は、VMSへの登録が完了すると、申込の際に、氏名、住所に加えて、Tシャツのサイズや緊急連絡先、使用言語、健康状態、食事に関する制限(アレルギーなど)、ボランティア経験や職務経験を合わせて記入を行った。この情報をもとにINHによる電話又は対面式面接が行われ、906人の応募者から485人がボランティア参加者として選出された。筆者の場合、5分程度の電話面接を受け、現在の仕事内容やボランティアの応募理由、これまでのボランティア経験などを尋ねられた。ボランティア参加者は、VMSの個人アカウントページから自分の個人登録情報の更新や、面接日時の確認・変更、シフトの確認、承認・拒否などを行うことができた。また、研修資料などボランティアに際して必要な情報は全て VMS 上にアップロードされ、ボランティア参加者はいつでも閲覧、印刷を行うことができた。さらに INH 事務局とのやり取りはサイト内メールシステムを使い簡単に行うことができた。

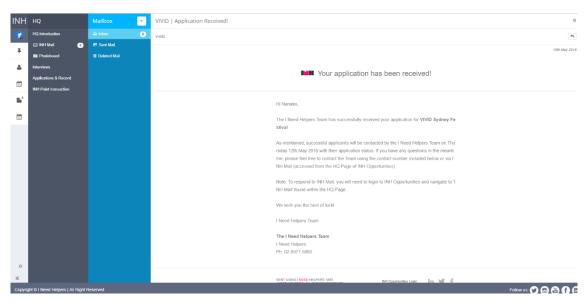


写真3-5 VMSの個人アカウントページ

3 ボランティア研修

ボランティア参加者には、研修の一環として、イベント概要、ボランティアの心得、 VMS を通じたシフト管理方法などが記載されたボランティアハンドブックがデータにて 送付された。

また、ボランティア参加者は全員、イベントが開始される2日前の5月 25 日 18:00~19:00 又は 19:00~20:00 に1時間の事前全体研修を受けることが必須とされた。この研修会では、まず受付にてボランティア証と当日の無料交通パスが渡され、NSW 州観光局からの挨拶やイベントの歴史や概要の説明が行われたのち、業務当日の流れやバリアフリー箇所の確認、不審物への対応、観客からの問合せ(トイレや避難経路、交通手段な

ど)対応、性別・人種・身体的差別的表現をしないための言葉の選び方など当日の業務に必要となる事項についての研修が行われた。



写真3-6 事前全体研修会の様子

4 ボランティア参加者の当日の流れ

ビビッド・シドニー2016のボランティア参加者は、市内13か所にある各イルミネーション会場に配置され、交通整備、道案内、インフォメーションセンターでの対応、展示エリアでの観客からの問合せ対応、展示物の説明などを行った。

ボランティアボランティア当日は、参加者は指定された時間に指定場所にて、各展示エリアのボランティアリーダー(INHのスタッフ又は事前に INHによるリーダー研修を受けたボランティア)と待ち合わせ、出席確認を行い、ボランティア用ジャケットを渡され、ボランティアを行った。

筆者は、事務所のあるマーティン・プレイスの展示エリアで6月3日にボランティアを行った。当日は、同じエリアを1人のボランティアリーダーと 10 人程度のボランティア参加者で担当し、各人がボランティアリーダーにより定められた場所に立ち、観客の問合せに対応した。問合せ内容は、あらかじめ渡されたイベントの全体地図(写真3-8)や展示物の説明書に基づいて対応できるのもがほとんどで、寄せられた質問の多くが、「別の展示エリアにはどういけば良いか?」「最寄り駅はどこか?」など道案内に関するものであった。

ボランティアリーダーの主な仕事は、担当エリアのボランティア参加者を終了時間まで管理をすることで、ボランティア参加者が仕事に飽きないように定期的に担当エリア内での担当場所の交代や休憩時間の確保の管理を行っていた。



写真3-7 体験型展示に並ぶ列を整備するボランティア

5 ボランティアの動機付け

ボランティア参加者は、ビビッド・シドニー2016終了後の6月26日に開かれた感謝パーティーに招待され、一人一人の名前が記載された感謝状を渡された。パーティーでは NSW 州観光局からのボランティア参加者と INH に向けた感謝のスピーチが行われ、ボランティア参加者の中から優秀ボランティアに選ばれた人たち(最もボランティア従事時間が長かった人など)に感謝状と記念品が手渡された。また公式フェイスブック上でもボランティアの写真を掲載し、ボランティアの貢献を周知した。

INH 代表のアレックス・リクソン・ブース(Alex Rixon-Booth)氏へのインタビュー及び提供資料によると、ビビッド・シドニー2016 のボランティア参加者の 78%が事前研修会は有益であったと回答しており、88.8%が VMS はシフト管理や情報管理を容易にした、97.5%がまた来年度も可能であれば参加したいと回答している。ボランティアには、英語を第一言語としない外国人移民や障がいのある人も参加していたが、あらかじめ VMS に登録されたデータをもとに彼らが参加しやすいシフトづくりや配置場所を心掛け、ボランティア参加者の期待とのミスマッチを防いだ。またボランティアリーダーは、様々な背景を持った人たちとの働き方の指導研修をしており、ボランティア参加者に気持ちよく働いてもらえるように心がけたそうである。

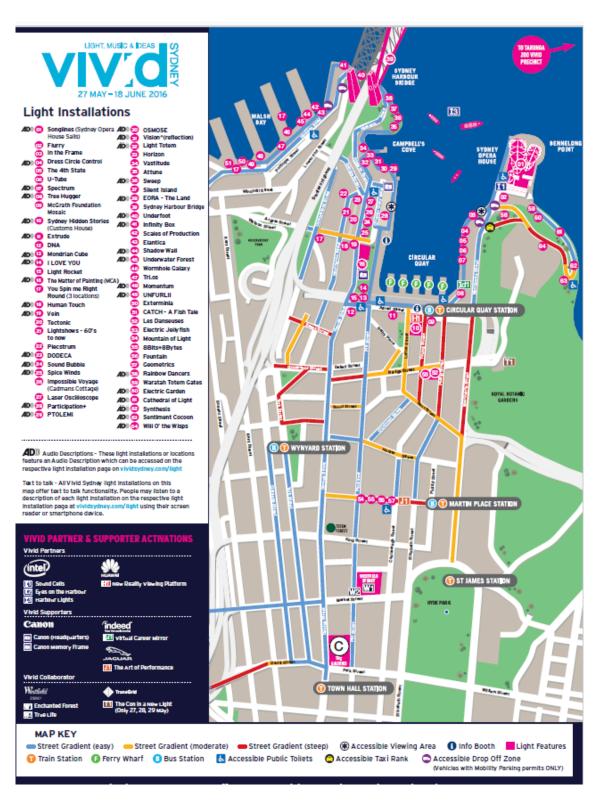


写真3-8 ボランティア参加者に配布された地図(展示箇所、バス・タクシー乗り場、 電車の駅、インフォメーションブース、トイレの場所などが把握できる。)

第3節 シドニーマラソンにおけるボランティアの活用

1 シドニーマラソンの概要

シドニーマラソン(Sydney Running Festival)は 2000 年シドニーオリンピックの開催を記念して、翌 2001 年から毎年開催されている南半球最大のマラソン大会である。例年9月の第3日曜日に開催され、2017年は9月17日(日)に開催された。種目はフルマラソン、ハーフマラソンのほかに $10 \, \mathrm{km}$ のブリッジラン、 $3.5 \, \mathrm{km}$ のファミリーファンランの4種類がある。全種目の参加者数は約3万3,000人、うち海外からの参加は約2,000人、日本からの参加者は約500人であった 43 。所管はオーストラリアのスポーツ運営を行う NPO 団体、アスレチック・オーストラリア(Athletics Australia)であるが、運営はスポンサー企業であるブラックモアズ社(Blackmores) 44 が行っている。

2 ボランティアの運営及び募集

シドニーマラソンのボランティアの運営についても、マラソンのスポンサーであるブラックモアズ社が行っている。そのため、ボランティアのプログラム名も「ブラックモア・ボランティアプログラム」(Blackmores Volunteer Program)という呼称になっている。ボランティアの応募はシドニーマラソンの公式ウェブサイト上で行う。申込を行う際、様式に①氏名、②性別、③生年月日、④メールアドレス、⑤電話番号、⑥住所、⑦緊急連絡先、⑧ボランティア参加希望日、⑨個人参加か団体参加かどうか、⑩過去のボランティア経験の有無、⑪ボランティアで活かせる能力、⑫Work with Children の有無、⑬ボランティアのチームリーダー経験の有無、⑭当日配布を受ける T シャツのサイズ、⑮通訳の可否、⑯イベント会場までの移動手段、⑰ボランティアを知った理由、⑱希望の配属場所、⑲希望の職種、⑳(エキスポ参加の場合)希望のシフトの情報を入力し、提出する。

3 ボランティアの職種

(1) イベント前のボランティア

マラソン前の4日間、シドニー市役所においてイベントエキスポが開催されている。エキスポではランナーへのゼッケン等の配布やマラソンに関する展示、関連商品の販売を行っている。イベントのシフトには、図表のとおり午前・午後・夜の3つがあり、ボランティアは全てのシフトに参加することもできる。

⁴³ シドニーマラソン 2017 公式サイト (閲覧日:2017 年 10 月 1 日)。

⁴⁴ サプリメント等を販売している会社であり、マラソン参加者への自社商品のサンプル提供 等を行っている。

図表3-9 エキスポにおけるボランティアのシフト 45

日程	シフト	時間
9月13日 (水)	午前シフト	7.30am - 2.00pm
	午後シフト	12.30pm - 7.00pm
9月14日 (木)	午前シフト	7.30am - 2.00pm
	午後シフト	11.30pm - 6.00pm
	夜間シフト	4.00pm - 8.00pm
9月15日(金)	午前シフト	7.30am - 2.00pm
	午後シフト	12.30pm - 7.00pm
9月16日(土)	午前シフト	7.30am - 12.00pm
	午後シフト	11.30am - 4.00pm

_

 $^{^{45}}$ Blackmores Sydney Running Festival, $Pre\mbox{-}event$ Roles & Responsibilities, http://sydneyrunningfestival.com.au/volunteers/pre-event (Accessed 2017-10-1).

その中で、ボランティアには以下の役割がある。

- ①情報ガイド(Information Guide):エキスポ会場での案内、ランナーがゼッケン等の受取に必要な確認メール等を持っているかを確認する。
- ②参加者用ゼッケン配布担当(Participant race bib Distributor): ランナーの番号を確認し、ゼッケンやスポンサー提供品の配布等を行う。
- ③ヘルプデスクアドバイザー(Help Desk Advisor): 事前に提供される情報を参考に、参加者の質問に答える。
- ④荷物預かり担当(Baggage Drop Off): ランナーが走り終わった後に回収する荷物を預かる。

(2) イベント日のボランティア

マラソン当日のボランティアは以下の場所に配置され、以下の役割を担う。

【各会場におけるボランティア】

マラソンのスタート地点であるミルソンズポイントのブラッドフィールド公園、ゴール地点であるシドニーオペラハウス及びシドニー音楽学校、リカバリービレッジ⁴⁶のある王立植物園の3か所及びマラソンコース内において、以下のボランティアが採用された。

- ①ボランティア及びマネージャー補助担当(Workforce Support):ボランティア参加者の当日の出欠登録や、マネージャー、チームリーダーの補助を行う。
- ②チームリーダー(Team Leaders):ボランティアが持ち場で役目を果たせるように調整や指示を行う。
- ③道案内担当(Wayfinders):ランナー・見学者への道案内を行う。
- ④給水所担当 (Drink Station Crew): コース内の給水所において、ランナーに水を手渡す。
- ⑤通訳案内担当 (Translator):日本語・中国語話者のランナー・参加者への案内・通訳を行う。

(3) 各ボランティアの詳細

前項において①~⑤で述べた各担当ボランティアの内容は、より具体的には以下の とおり分類された。

【スタート地点ボランティア】

①情報アドバイザー(Information Advisor): ランナーへの情報提供、遺留物の関係で登録チームを補助。

⁴⁶ ランナーが完走後にマッサージ等を受ける、食事を取るなどすることができるエリア

- ②荷物預かり担当 (Clothing/Baggage Collectors): ランナーの荷物を預かり、ゴール地点に持っていく補助をする。
- ③スタート地点担当(Start Assembly Crew): ランナーを 3 か所のスタート地点に 適切に案内する。

【ゴール地点ボランティア】

- ①ゴール地点担当(Finish Chute Marshals): ゴール地点のバリケードの開閉を行う。また、ゴール地点周辺の道案内を行う。
- ②ゴール地点医療担当 (Chute Spotters): ゴール地点で医療の必要なランナーを 見分ける。また、救急隊の補助を行う。
- ③誘導担当(People Movers): ゴール地点付近に人が溜まらないように完走したランナーを誘導する。
- ④リカバリーゾーン担当(Marathon Recovery Zone Crew): 完走ランナーへの T シャツ・メダルの配布担当、リカバリーゾーン内の給水所担当の補欠となる。
- ⑤メダル配布担当 (Medal Distributor) : 完走者にメダルを配布する。
- ⑥マラソン結果担当(Results): 各マラソンで 1 位~ 3 位の順位付けをする結果担当マネージャーの補助、入賞者のステージへの案内を行う。

【リカバリービレッジボランティア】

荷物預かり担当 (Clothing/Baggage Collection): マラソン前にランナーから預かった荷物を返す。

【コース内の給水所】

- ①給水所チームリーダー(Drink Station Team Leader):給水所担当マネージャーと協力して、給水所の設置、片付けを行うとともに、給水所担当ボランティアに指示を出す。
- ②給水所補助担当(Drink Station 2nd in Charge):給水所のボランティアや、コース案内ボランティアの補助をする。マネージャー、チームリーダーと協力し、無線で状況報告等を行う。
- ③給水所担当 (Drink Station Crew):給水所の設置、運営、片付けを行い、ランナーに水を配る。

【マラソンコース内】

- ①コース部門チームリーダー(Course Sector Team Leader): コース担当の監督者 と協力して、コース担当ボランティアの配置決めを行う。また、コース担当ボランティアにボランティアの内容についての説明を行う。
- ②コース担当ボランティア(Course Marshal Crew): ランナーにコースを案内し、 応援する。また、コース上の障害物等を取り除く。

4 ボランティアの研修

イベント日の約3週間前の8月29日(火)18時から20時にかけて、各会場担当のボランティア参加者への研修(Training Night)が開催された。研修は、チームリーダー、ボランティア及びマネージャー補助担当等は参加を義務付けられているが、その他の職種のボランティアは自由参加である。研修の内容は、シドニーマラソンの概要や会場の配置図、当日の役割等の確認である。会場には軽食が用意され、また、研修参加時にくじが渡される。研修の最後にくじ引きが行われ、当選者には景品が送られる。

5 ボランティア当日の事務手続及び業務

ボランティア当日、参加者は指定された時間に参加登録のブースに行き、ボランティア名簿にサインして、ボランティア用Tシャツ、帽子を受け取るとともにボランティアの職務について説明を受ける。やむを得ず不参加の場合には電話でその旨を連絡する。筆者は通訳ボランティアとして参加したため、以下にその概要を説明する。

シドニーマラソンでは、日本人・中国人の参加者も多いため、スタート地点、ゴール地点等に日本語・中国語での案内ブースを設けている。筆者はゴール地点のシドニーオペラハウスのヘルプデスクにおいて、ランナーへの案内、日英通訳を行った。ヘルプデスクはゴール地点からリカバリーゾーンに向かう途中にあり、多くの参加者が立ち寄って賑わったが、一方で、寄せられた質問の大半が「メダルはどこでもらえるのか」、「トイレはどこか」といったものであり、主要な会場等への標識不足からボランティアへの負担が大きくなっていることも見受けられた。また、ヘルプデスクはボランティアのみで運営されており、事前の研修参加が義務ではなく、配置場所に Q&A 集のようなものもなかったため、質問を受けてもボランティアが回答できないことや誤った回答をすることがあった。ヘルプデスクは周辺のボランティアの拠点でもあり、ボランティアへの昼食の提供や、ボランティア帰宅時のサイン受付も行った。

第4節 マルディグラにおけるボランティアの活用

1 マルディグラの概要

マルディグラ(Sydney Gay and Lesbian Mardi Gras)は、シドニーで毎年2月中旬から3月初旬にかけて開催される LGBT の祭典である。同性愛が犯罪として扱われていた時代の抵抗運動としてのデモ行進に起源があり、2018年で40周年を迎えた。特に3月第一週土曜日 19 時から 23 時までに開催される、オックスフォード・ストリート(Oxford Street)でのマルディグラ・パレードは約1万2,000人が参加し、20万人以上の観客が集まる、シドニーを代表するイベントの一つである。パレード以外にも、マルディグラの期間開始後の日曜日に行われるフェア・デー(Fair Day)やパレード後に朝まで行われるパーティーなど多数のイベントが開催される。

2 ボランティアの募集・役割

ボランティアの募集は前年 11 月頃に公式ウェブサイトにおいて開始されるが、人気が高いためイベント1か月前までには満員で募集が締め切られる。毎年 1,500 人以上のボランティアが参加しており⁴⁷、海外からの参加も可能である。登録者には①専用 T シャツ・帽子の提供、②パーティー券代金の割引⁴⁸、③ボランティア慰労会への参加権などの特典がある。ボランティアの種類には以下のものがある。

(1) イベント運営チーム (Event Production Teams)

パレードやフェア・デー、パーティーなどを含めた各イベントにて調整、ステージ 管理、募金、広報などのイベント運営を行う。

(2) マルディグラ・クリエイティブ・ワークショップ (Mardi Gras Creative Workshop)

ワークショップ・マネージャーの指示に従って会場の設営・塗装、コスチュームデ ザインなどを行う。

- (3) イベント当日ボランティア (Event Day Volunteers) パレード、フェア・デー、パーティーなどのうち1日だけボランティアを行う。
- (4) サポートチーム (Support Teams)運営事務、ボランティア運営などの補助を行う。

3 ボランティア活動の事例

本稿では、前項のボランティアの役割のうち、フェア・デーにおいて募金活動を行う イベント当日ボランティアを事例として扱う。2018年のフェア・デーには 106名の募金

⁴⁷ Sydney Gay and Lesbian Mardi Gras,

https://sydneymardigras.squarespace.com/volunteers (Accessed 2018-3-15).

⁴⁸ なお、割引額はボランティア1回のシフトでパーティー券が 75%引き、2回以上のシフトでパーティー券に加えて、もう一つ任意のイベント券が 75%引きとなる。ボランティアに参加しすぎて負担が増えることを避けるため、2回以上行ってもそれ以上の特典はない。

活動ボランティアが参加した。ボランティアは会場であるビクトリア公園の入り口5か所に立って募金活動を行う。最初に各人の配置が決められるが、定期的に配置換えを行って他の入り口での募金活動も経験できるようにしている。また、ボランティア活動時間は4時間で、昼食時間と重なる場合には昼食が提供される。提供される昼食には、通常のものに加えてベジタリアン用、ビーガン49用のものもある。

参加者には緊急時の連絡先や注意事項、熱中症の防止方法、無線機を渡された場合の対応方法、Q&A などの情報が盛り込まれた「フェア・デー募金ハンドブック」(Fair Day Fundraising Handbook)がメールで配布される。2017年までは参加者への研修会も行っていたが、2018年にはこのメールでの資料配布のみとなった。



写真3-10 募金活動を行うボランティア50

⁴⁹ ベジタリアンの中でも魚や卵、乳製品を取らず、植物性食品のみを食べる人たちのこと。

⁵⁰ Sydney Gay and Lesbian Mardi Gras 2018, Fair Day Fundraising Handbook, p.8.

第5節 ラグビーリーグワールドカップにおけるボランティアの活用

1 ラグビーリーグワールドカップの概要

ラグビーリーグワールドカップ (以下、「RLWC」という。) は、ラグビーリーグ 51 の ナショナルチームによる国際大会で、1954 年に第 1 会大会が開催され、2017 年大会で 15 回目の開催となった。2017 年 RLWC 大会は 14 か国のナショナルチームが参加し、2017 年 10 月 27 日から 12 月 7 日の 5 週間にわたり、28 試合が繰り広げられた。

本大会は、オーストラリア、ニュージーランド、パプアニューギニアによる共同開催で、オーストラリアでは、メルボルン、キャンベラ、シドニー、ブリスベン、タウンズビル、ケアンズ、ダーウィン、パースの8都市、ニュージーランドではオークランド、ハミルトン、ウェリントン、クライストチャーチの4都市、パプアニューギニアではポートモレスビーの1都市において開催された。

2 ボランティアの募集

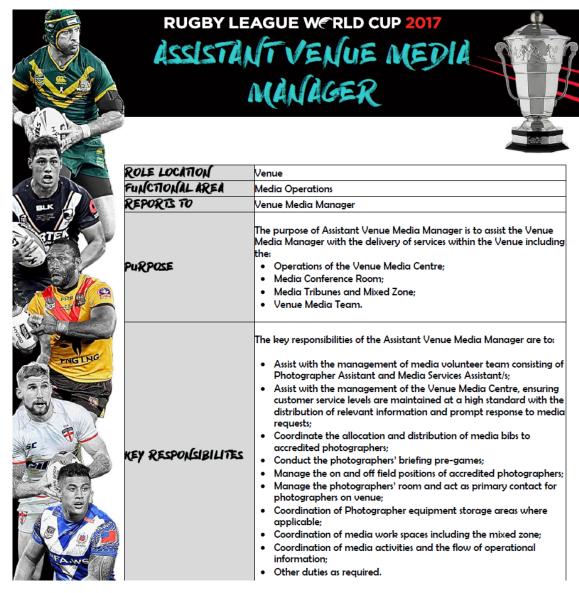
ボランティア参加の見込み数を把握するために、ボランティアの正式募集に先立ち、 RLWC2017 の公式ウェブサイト上にボランティアに興味がある人が①名前、②住所、③ 連絡先メールアドレスを登録できるフォームを設けた。

2017 年 2 月より一般募集に先行して、NRL(ナショナルラグビーリーグ)やニューサウスウェールズラグビーリーグなどの RLWC の関係者を対象にした募集が行われ、その1週間後に一般募集が開始された。大会事務局は募集を公式ウェブサイトやソーシャルメディアを通じて行うとともに、上段方法により事前にメールアドレスを登録していた人たちにも直接連絡を行った。

ボランティアの応募は、オンライン上の応募フォームを通じて行われた。全てのボランティア職種の業務内容は、応募フォーム上に掲載され、応募者は詳細な内容をきちんと確認したうえで申込を行うことができた。ボランティア希望者は、応募フォームに生年月日とメールアドレスを必須事項として記入し、少なくとも3日間ボランティアとしてシフトに入ること、面接会場までの交通費を自費負担すること等に合意し、応募時に18歳以上であれば、申し込むことができた。申込時点では、氏名や住所は任意入力項目となっており、希望職種は最大3つまで選択できるようになっていた。これは、なるべく全員が希望職種に着けるよう配慮された結果である。

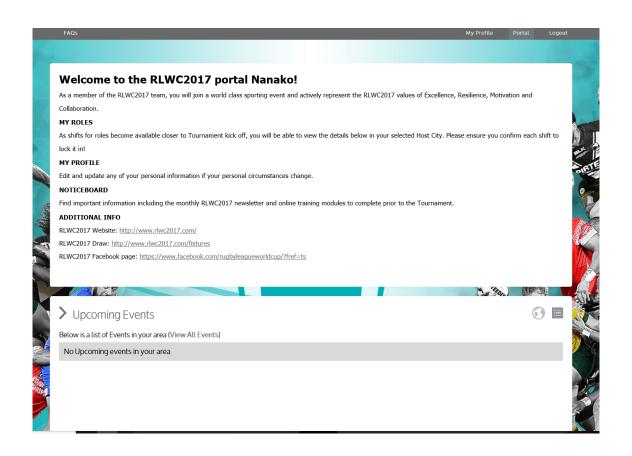
37

⁵¹ ラグビーフットボールの1つで、1チーム13人の2チームによって行われる。オーストラリアやニュージーランド、ヨーロッパで人気を博している。



図表3-11 応募フォームに掲載されたボランティアの業務内容の説明の一例

応募フォームに入力された情報は"Rosterfy"と呼ばれる管理システムに登録され、申込が完了すると、大会事務局より、連邦警察庁の定めにより犯罪経歴がないかの事前確認(オーストラリアのみ)、身分証明書(パスポート、運転免許証、又はその他の年齢確認書類)の提出を求められた。ボランティアに選ばれると、大会事務局は、システムを通じて、ボランティアにシフトの割当や、研修に関する情報提供のため連絡を行うとともに、シフト管理や運営管理を行った。開催都市関係者も、運営に関わる一部の必要事項を閲覧できるようになっており、ボランティア登録者もポータルサイト(The RLWG 2017 portal)から自分の個人情報の更新やシフトの確認、承認・拒否、研修日時の確認を行うことができた。



図表3-12 ボランティア管理システムポータルサイト

3 ボランティア参加者の分類

ボランティアの業務は(1)開催都市関連(2)会場関連の二つに大きく分類され全体で計 423 人が参加した。

(1) 会場都市関連

- ①開催都市アシスタント 大会関係者、政府関係者、VIPの開催都市滞在中の対応の補助業務(63人)
- ②トレーニング会場調整 事前トレーニング会場で競技チームや大会職員が円滑に準備を行うための補助業 務(30人)

(2) 会場関連

- ①会場メディア管理者補佐(Assistant Venue Media Manager) メディア管理者の業務(会場に設置されたマスコミセンターの運営、マスコミ用 会議室、マスコミ特別席や混合席などにおける業務)の補助(13人)
- ②ボールパーソン調整員 (Ball Person Coordinator) 試合前後、試合中における競技チームのボールパーソンの管理(19人)
- ③デジタルサービスアシスタント(Digital Service Assistant)

デジタル・ソーシャルメディア班の業務の補助(試合の写真の公式ウェブサイト 等への掲載の補助など) (15人)

- ④大会運営アシスタント (Event Operations Assistant) 大会運営班の業務 (各試合の計画、調整、会場運営や報道や各種契約に関する事項との整合性の確保)の補助 (19人)
- ⑤試合運営アシスタント(Football Operations Assistant) 試合中や事前トレーニング会場での競技チームや大会職員の補助(14 人)
- ⑥メディアサービスアシスタント(Media Services Assistant) メディアサービス班の会場マスコミセンターの運営、マスコミ用会議室、マスコ ミ特別席や混合席等における業務の補助(21人)
- ⑦カメラマンアシスタント (Photographer's Assistant) メディアサービス班の業務 (各競技地におけるカメラマンの管理の補助業務 (カメラマン専用室の会場設営や片付け、カメラマンからの問合せへの対応等) の補助 (17人)
- ⑧VIP アシスタント (VIP Assistant)
 VIP や企業からの来賓の対応の補助 (VIP 専用エリアの準備手伝い、指定席までの案内補助、来賓からの問合せ対応等) (16人)
- ⑨歓迎・案内アシスタント(Welcoming & Wayfinding Assistant) 観客の到着から試合会場までの道案内サポート(120人)
- ⑩人事管理アシスタント (Workforce Operations Assistant) 人事管理者の業務 (職員、ボランティア、インターン、受託業者のシフト管理や 業務の円滑な運営)の補助 (28人)
- ①登録会場サポート (Accreditation Assistant) (48人) 競技会場内にある登録会場での業務の補助

ボランティア募集時には、チームリエゾンオフィサー (競技チームとの連絡調整、 宿泊先や試合、事前トレーニング会場での競技チームのスケジュールの管理サポート) も業務一覧に掲載されていたが、実際には配置されなかった。

各開催地域においてボランティア動員数に大きな隔たりはなく、平均で 30 人が配置 された。

4 ボランティア研修

ボランティア参加者は8月中旬にオリエンテーション(オンライン)、9月下旬に業務研修(オンライン)、10・11月に各開催都市での現地研修を受ける必要があった。

オンラインで行われたオリエンテーションでは、RLWC2017 大会事務局最高責任者からのビデオメッセージの公開や RLWC の理念や戦略の説明、9月のオンライン業務研修では、当日の業務の流れや事故等不測の事態に関する報告体制に関する説明が行われた。

現地研修では、会場管理者より、業務内容に関する研修と競技会場の避難経路、休憩 所、受付等の確認が行われた。現地研修は開催地域ごとに計 14 回開催され、いずれも各 会場における初戦 2 日前の午後 5 時半から 7 時まで行われた。

各会場では 10 月 3 日から 12 日のいずれかに大会開催に先立ち、ボランティア参加者や大会職員等に向けたウェルカムイベントが開催された。会場には軽食が用意され、ボランティア当日のユニフォームや参加登録証、無料食事券、交通券の引渡が行われた。当日は受付で「受取カード(Collection Card)」が渡され、ユニフォーム(ポロシャツ、ズボン、ジャケット)や参加登録証など、配布物を受け取ったら、カードにチェックマークをつけて、全ての受取が終わったら日付とサインをしたのち事務局にカードを戻すシステムになっていた。これにより、事務局は全ての参加者への配布を管理した。

5 ボランティアの動機付け

ボランティア参加者に大会最終日まで参加し続けてもらうために、RLWC 大会前から終了後まで段階を分けて様々な動機付けが行われた。RLWC 事務局のルイス・ライン (Lewis Laing) 氏は、RLWC2017のボランティア運営が成功した理由として、①オンラインポータルサイトを通じて、情報の提供、更新、ID 等の提出を容易にしたこと、②ボランティアから一度に全ての個人情報や必要書類の提出してもらい、何度も提出を求める手間を無くしたこと、③応募フォームにボランティアの業務内容について詳細に掲載したころ第3希望まで記入させたことで応募者の期待とのミスマッチを軽減させたこと、④ボランティアの視点に立ち、業務内容が楽しく簡単で、業務内容や指示系統が理解しやすいよう心掛けたことを挙げている。

図表3-12 ボランティアの動機付け一覧

イベント	内容	時期	頻度
現物支給			
開催都市ウェルカ	・RLWC2017 ポロシャツ(2枚)	大会前	一度
ムイベント	・RLWC2017 ズボン(1枚)		
	・RLWC2017 ジャケット(1枚)		
	・RLWC2017 帽子		
	・RLWC2017 かばん		
	・RLWC2017 水筒		
	・RLWC2017 観戦ペアチケット		
	・RLWC2017 参加登録証		
事前研修	・RLWC2017 開催地初戦観戦ペアチケット	大会前	一度
シフト初日	・RLWC2017 バッチ	大会中	一度
	・RLWC2017 観戦ペアチケット		
大会中	・その日特に秀でたスタッフ(Best on	大会中	一度
	Ground)に選ばれた人へのスポンサーからの		
	特別記念品		
全てのシフトを終	・個人名の記載された感謝状	大会後	一度
えた人	・RLWC2017 ミニフットボール		
その他			
ボランティアに選	・ニュースレターの配信(全ての関係者に、	大会前	7月か
ばれたら	それぞれの功績を伝える)		ら10
			月まで
			の間4
			~6週
			間ごと
シフト初日	・休憩所の飾りつけ、休憩所での業務説明	大会中	一度
Best on Ground	・休憩所で Best on Ground の投票を行う。	大会中	定期的
へのノミネート			Lunt
業務の達成	・Best On Ground にノミネートされた人を	大会中	定期的
	掲示		. C. He II
大会中の写真撮影	・ボランティア活動中に自身を含めた会場	大会中	定期的
(Selfies of the	での記念撮影を行い、ハッシュタグ		
Day)	(#RLWC2017,#RLWC2017		
	CupSquadSelfie,#RLWC2017CupSquad)		
** [] \ \ [] \ \ \ \ \ \ \ \]	をつけて拡散することの推進	1.0.4	_L_ttn //
競技会場でのアナ	・会場においてボランティア参加者への感謝	大会中	定期的
ウンス	をスピーカーで述べる。	V 18 ~ 5 5	
大会の終了	・各競技会場単位で、シフトの終了者の名前	会場ごと	一度
	をニュースレターや休憩所の掲示板に掲載し	最終日に適	
	祝福する。	宜	

おわりに

本レポートは、オーストラリアにおけるボランティア事情を、統計データ、行政施策、活用事例から概観した。活用事例に共通して言えることは、①オンラインプラットフォームの活用によるボランティアの個人情報の把握や適正な配置、②修了証の授与や慰労会の開催によるボランティア参加者の動機付けなどであった。

特にボランティア活動は、無償活動のため、参加登録後の不参加を防ぐために、ボランティア参加者の動機付けを行い、やる気を維持させることは重要な課題である。

この点、オーストラリアではTシャツ、帽子などのオリジナルグッズの提供や、修了証授与、慰労会開催などの取組に加えて、一部のイベントでは景品くじの配布やイベントチケットの割引などを行っていた。また、シドニーオリンピックの際には、ボランティア活動を大学の単位として認定する取組も行われた。このことから、純粋な奉仕精神によるものやボランティア経験を求めたものではなく、実益を求めたボランティア参加者も数多くいることが推察される52。

さらにイベント開催時にメディアや開・閉会式などを利用してボランティアへの感謝を大衆に向けて発信することで、ボランティア参加者の功績を社会に伝えるとともに、ボランティア参加者の自尊心を高め、次回以降のボランティア参加への動機付けにつながっていると思われる。

行政においても、ボランティアの社会的、経済的価値を認めており、各政府レベルでボランティア戦略の策定をはじめボランティア活動の推進や支援に向けた具体的な取組が行われている。これらの施策により、ボランティア活動が国民の間に更に広がるとともに、ボランティアの社会的な地位が高まることが期待されている。

また、事例として挙げたもののうち、シドニー・ビエンナーレ、ビビッド・シドニー、シドニー・マラソンには筆者がボランティアとして参加したが、筆者のようなノンネイティブの外国人でも問題なく参加することができた。日本においても多文化共生が推進される中で、外国人の活躍の場の提供は今後ますます重要になってくるものと考えられるが、そのために多文化国家のオーストラリアに学ぶことも多い。

2019 年ラグビーワールドカップ、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会、 2021 年ワールド・マスターズ・ゲームズといった大規模イベントの開催を控える中、本 稿が行政によるボランティアの活用の参考となれば幸甚である。

なお、本レポートはオーストラリア国内のボランティア事情を概説したものであるが、オセアニアのボランティア事情についてより深く理解するには、筆者のクレアレポート「ワールド・マスターズ・ゲームズ 2017 について」に記載のニュージーランドの事例も参照されたい。

⁵² 実際に、参加者へのインタビューによれば、マルディグラにおけるボランティアの人気が高いのは、チケットの割引を期待する申込者が多いためである。また、INH 代表アレックス氏からの提供資料によると、ビビッド・シドニー2016 のボランティア参加者の 73%の参加動機がスキルアップ、キャリアアップのためであった。

参考文献

ABS, AUSTRALIA (0) 2016 Census of Population and Housing General Community Profile Catalogue number 2001.0.

ABS, 4159.0.55.004 - Discussion Paper: Information needs for Volunteering data, April 2017 http://www.abs.gov.au/AUSSTATS/abs@.nsf/Lookup/4159.0.55.004Main+Features1April%202017?OpenDocument (Accessed 2018-3-15).

ABS, 4159.0 - General Social Survey: Summary Results, Australia, 2014.

ABS, 4440.0 - Voluntary Work, Australia, June 1995.

ABS, 4441.0 – Voluntary Work, Australia, 2000.

ABS, 4441.0 - Voluntary Work Australia, 2006.

ABS, 4441.0 - Voluntary Work Australia, 2010.

ABS, 4159.0 - General Social Survey: Summary Results, Australia, 2014.

Blackmores Sydney Running Festival, Pre-event Roles & Responsibilities,

http://sydneyrunningfestival.com.au/volunteers/pre-event (Accessed 2017-10-1).

Community Grants Hub, Australian Government, Volunteer Grants 2016,

https://www.communitygrants.gov.au/grants/volunteer-grants-2016 (Accessed 2018-3-15).

Constand, S., Volunteering at the Sydney Olympics: tangible legacy or distant memory?. 2014 https://futurechallenges.org/local/volunteering-at-the-sydney-olympics-tangible-legacy-or-distant-memory/ (Accessed 2018-3-15).

Department of Social Services, Australian Government, Volunteer Management Activity Grant Opportunity Guidelines,

https://www.communitygrants.gov.au/sites/default/files/documents/12_2017/grant_op-portunity_guidelines_-volunteer_management_activity_0.pdf (Accessed 2018-03-15).

Department of Communities, Government of Western Australia,

WA Volunteering Strategy Enriching lives, strengthening communities,

https://www.dlgc.wa.gov.au/Publications/Documents/WA_Volunteering_Strategy_2017.pdf (Accessed 2018-3-15).

Koutrou, Niki. Pappous, Athanasious. And Johnson, Anna., *Post-Event Volunteering Legacy: Did the London 2012 Games Induce a Sustainable Volunteer Engagement?*, 2016.

Lockstone-Binney, Leonie et al., Evaluation the volunteering infrastructure legacy of the Olympic Games: Sydney 2000 and London 2012, 2016.

NSW Government, NSW Volunteering Strategy 2016-2020.

NSW Volunteering, *About us*, https://www.volunteering.nsw.gov.au/about-us (Accessed 2018-3-15) .

NSW Volunteering, Legal Sources,

https://www.volunteering.nsw.gov.au/resources/legal-resources (Accessed 2018-3-15) .

NSW Volunteering, Listing of Volunteer Resource Centres in NSW,

https://www.volunteering.nsw.gov.au/__data/assets/pdf_file/0006/432816/List-of-Volunteer-Resource-Centres.pdf (Accessed 2018-3-15).

NSW Volunteering, Premier's Volunteer Recognition Program,

https://www.volunteering.nsw.gov.au/stories/premiers-volunteer-recognition-program (Accessed 2018-3-15).

Safe Work Australia, *The Essential Guide to Work Health and Safety for Volunteers*, https://www.safeworkaustralia.gov.au/system/files/documents/1703/volunteers_guide.pd (Accessed 2018-3-15).

Smith, L., living is giving – the volunteer experience, 2001.

Sydney Gay and Lesbian Mardi Gras,

https://sydneymardigras.squarespace.com/volunteers (Accessed 2018-3-15).

Sydney Gay and Lesbian Mardi Gras, Fair Day Fundraising Handbook, 2018.

Volunteering Australia, Partners and Supporters,

https://www.volunteeringaustralia.org/get-involved-2017/partners-supporters/ (Accessed 2018-3-15).

Volunteering Illawarra, *ABOUT US*, http://volunteeringillawarra.org.au/aboutus/ (Accessed 2018-3-15).

Volunteering Victoria, Key facts and statistics about volunteering in Victoria, 2016. Willoughby City Council, Volunteering,

http://www.willoughby.nsw.gov.au/community/volunteering/ (Accessed 2018-3-15). Wollongong City, *State of Volunteering in the Illawarra – 2012*,

<http://163.53.229.183/ \sim voluntee/wp-content/uploads/2017/05/State-of-Volunteering-in-the-Illawarra-2012.pdf> (Accessed 2018-3-15).

笹川スポーツ財団「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究(スポーツ におけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究)」(平成 27 年 3 月)。 シドニーマラソン 2017 公式サイト <http://www.sydneymarathon.jp/> (閲覧日: 2017年 10月 1日)。

内閣府「平成28年度市民の社会貢献に関する実態調査報告書」(平成29年3月)。

シドニー事務所 所長補佐 島田菜々子(神戸市派遣) 所長補佐 小松俊也(東京都派遣)